

東京都の気運醸成の取組

東京都生活文化局

2017年1月22日（日曜日）

1. ボランティア行動等実態調査①

● 調査概要

【目的】都民のボランティア活動に関する取組状況等の把握

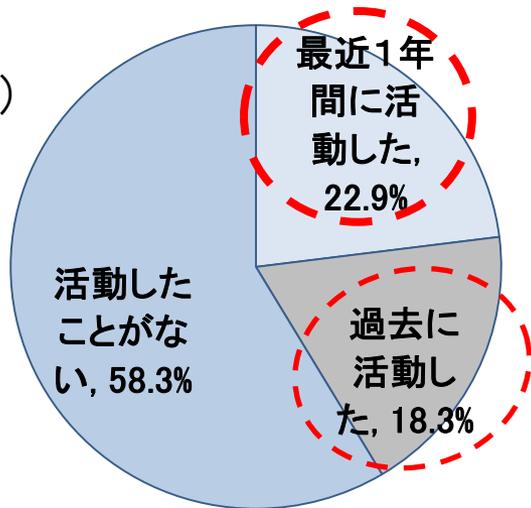
【対象】都全域に住む満10歳以上の男女個人5,000人

(個別訪問調査、有効回答者数3,027人、回収率60.5%)

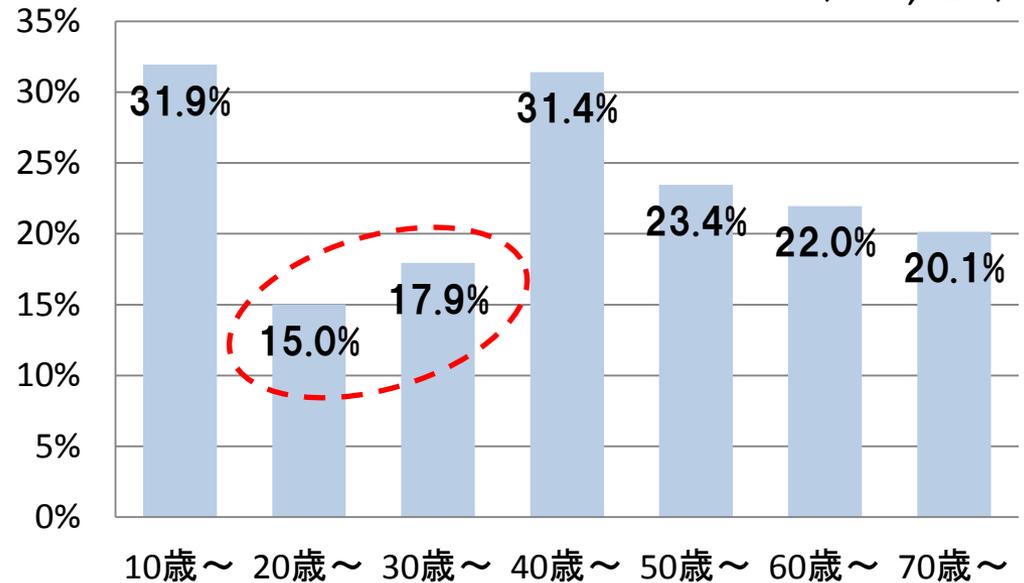
【調査期間】平成28年10月

ボランティア活動の経験

(n=3,027)



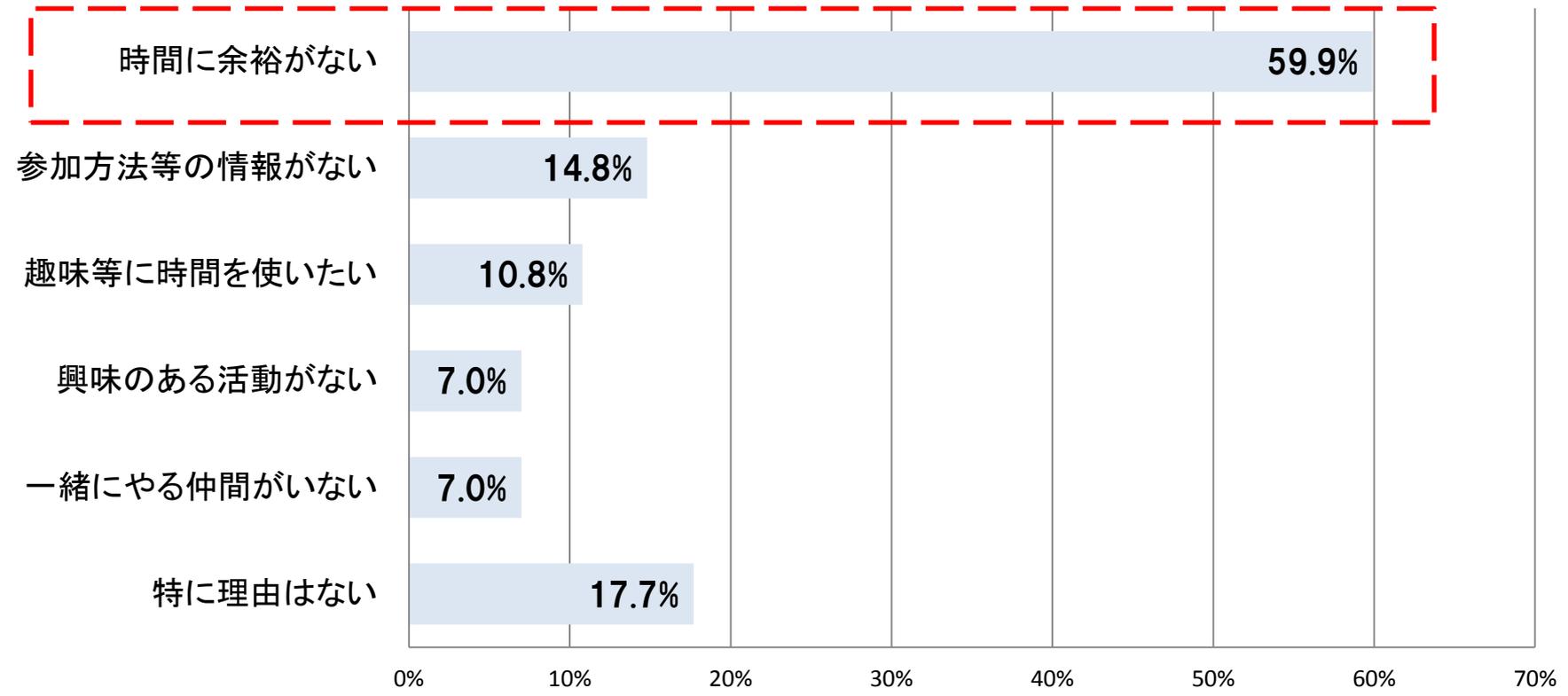
年代別ボランティア活動の経験 (n=3,027)



ボランティア行動者率(過去1年間にボランティア活動をした都民の割合)は22.9%
過去に活動した人まで加えると、40%に達する
年代別では、20歳代、30歳代の若い世代の行動者率が低くなっている

1. ボランティア行動等実態調査②

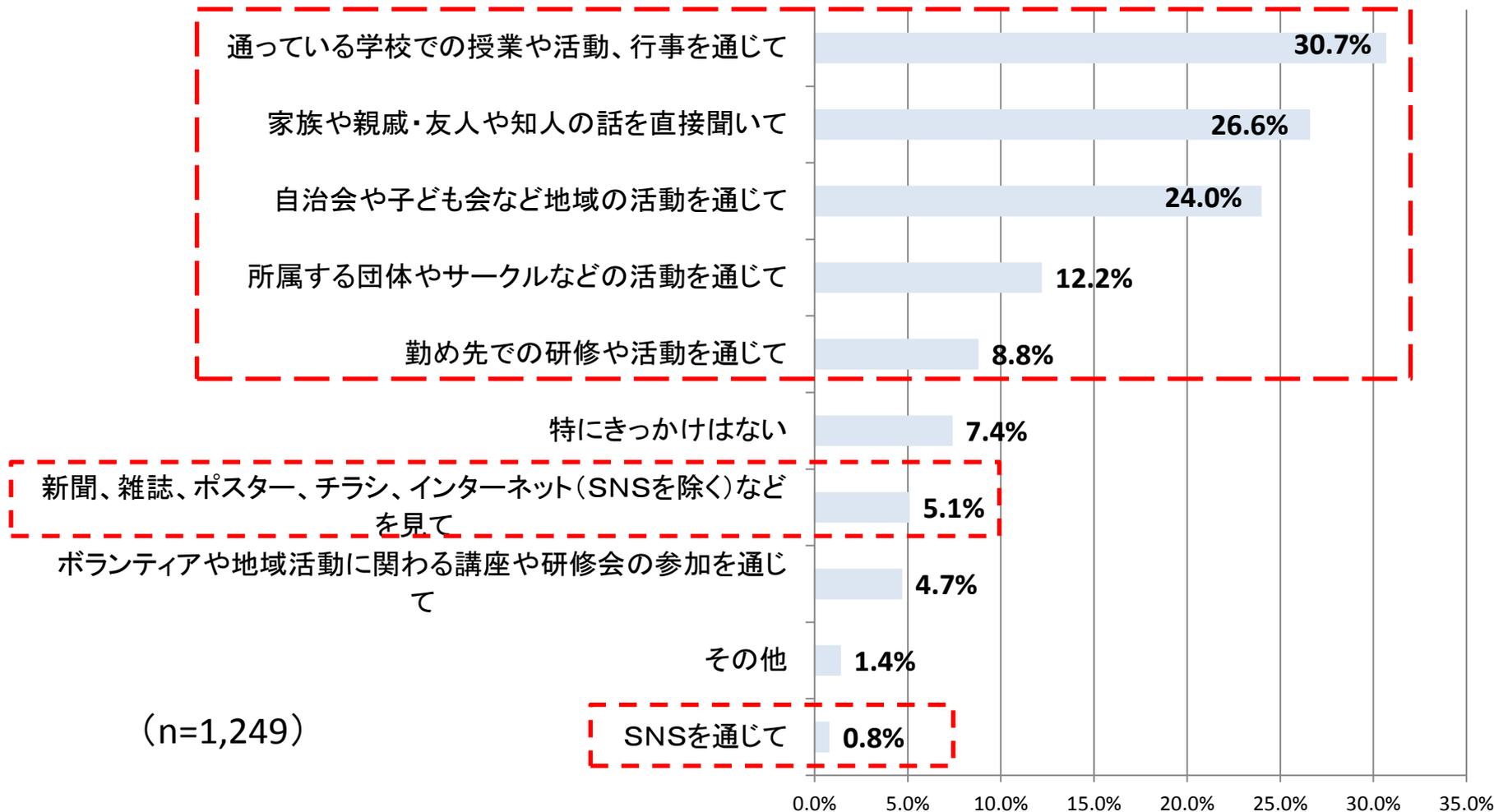
今までに活動したことがない理由 (n=1,766)



時間に余裕がないためにボランティア活動に参加していない人が多い

1. ボランティア行動等実態調査③

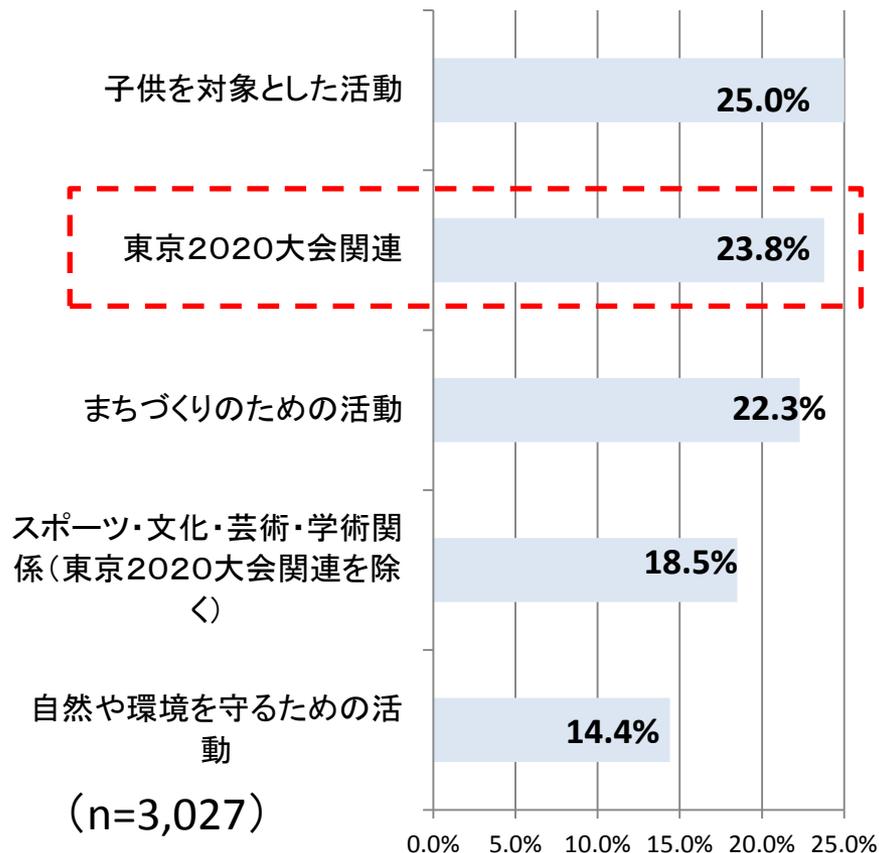
ボランティア活動に参加したきっかけ



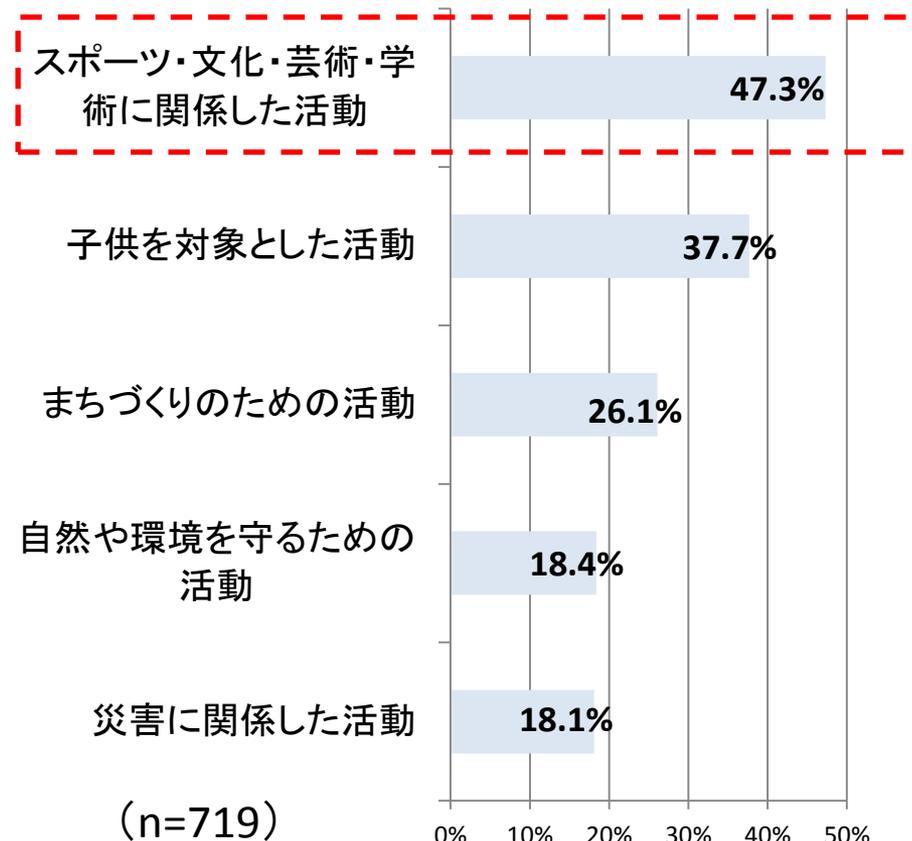
身近な存在(家族・知人等)や所属する団体等がきっかけとなった人が多く、
広報媒体やSNS等はあまりきっかけとなっていない

1. ボランティア行動等実態調査④

今後活動を希望するボランティア活動
(上位5項目)



東京2020大会関連ボランティア希望者が関心を寄せている他の分野の活動(上位5項目)



多くの都民が東京2020大会関連ボランティアを希望。こうした都民は、大会関連以外では、スポーツ・文化等に関係した活動に関心がある

2. 今年度の事業（気運醸成に係るPR事業①）

●実施目的

「誰でも気軽に参加できるボランティア活動（ちよいボラ）」をテーマに、20歳前後の学生を中心に活動経験のない都民を対象として、イベントを実施し、「ちよいボラ」をPR

●実施概要

1 開催日時

平成28年11月23日 12時～16時

2 会場

代々木公園・野外ステージ

3 イベント内容

ごみ拾い体験、トークショー、ボランティア団体の紹介・展示

4 主な出演タレント

みちよば（池田美優）・・・モデル、タレント

5 イベント参加者数

261名（うち、ごみ拾い体験者数97名）



6 参加ボランティア団体

特定非営利活動法人 green bird

CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会

認定NPO法人 JUON（樹恩）NETWORK

特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）

公益財団法人 目黒区国際交流協会

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）

C・K・C インターナショナルユースクラブ

7 広報

「ちよいボラ」普及のため、イベントに合わせて、渋谷を中心にポスターや街頭ビジョンによる広報を実施した他、twitter等のSNSでも動画を配信。

平成29年1月にも同様の広報を展開

2. 今年度の事業（気運醸成に係るPR事業③）

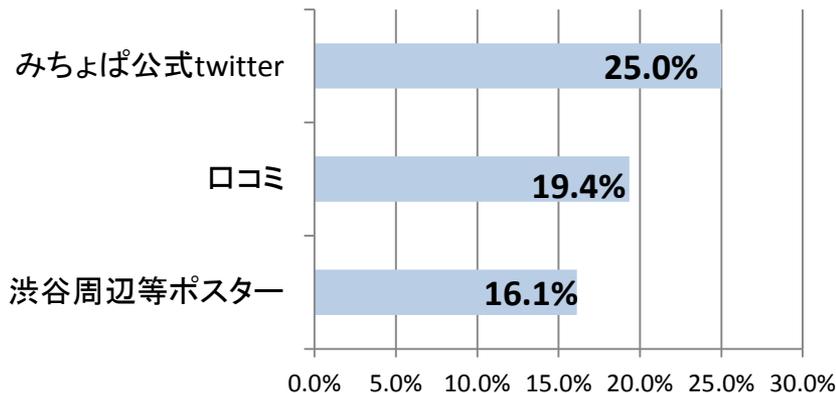
8 アンケート結果（n=124）

（1）参加者年齢層

15歳から24歳の参加者が全体の35%であった

（2）イベントを知ったきっかけ

イベントを知ったきっかけ上位3項目



行動等実態調査の傾向と異なり、SNSや広報媒体もきっかけとなって参加した人が多い

（3）満足度

「満足」50%、「まあまあ満足」27%、「不満」0%

（4）今後ボランティアをやってみたいと思ったか

「思った」95%

2. 今年度の事業（その他の主な事業）

- 東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞
- 外国人おもてなし語学ボランティアの育成
 - ・街の中で困っている外国人を簡単な外国語で、道案内等の手助け
- 東京ボランティア・市民活動センター事業の支援
 - ・ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」による情報発信
 - リニューアルによる情報発信機能の強化（平成28年度）
 - ・ボランティア活動に関する相談（平成27年度約15,000件）
 - ・ボランティアコーディネーターの養成（平成28年度拡充）
 - ・企業におけるボランティア活動の推進（平成27年度より実施）
 - 企業等からの相談事業（平成28年度体制強化、専用ダイヤル開設）
 - 社会貢献セミナー等の実施
 - 企業ボランティア・アワードの実施

3. 都民ファーストでつくる「新しい東京」

～2020年に向けた実行プラン～

「都民ファースト」の視点に立ち、「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」の「3つのシティ」の実現を目指す。平成29年度からの4年間の計画（平成28年12月策定）

ダイバーシティ ～誰もがいきいきと生活できる、活躍できる都市・東京～

政策展開

ボランティアの着実な育成と共助社会の実現

東京2020大会に向けてボランティアへの参加気運の醸成や各種ボランティアの裾野拡大及び着実な育成を進めるとともに、ボランティア活動の活性化により、都民一人ひとりが互いに支え合う共助社会の実現につなげる



政策目標

2020年度までに都民のボランティア行動者率40.0%を達成

※従来の目標達成時期を4年前倒し

○ボランティア行動等実態調査の結果から

身近な存在(家族・知人)や、自分が所属する団体の活動を通じて、ボランティア活動に参加する人が多い



東京には、企業や大学が多く集積。こうした企業や大学を通じて、その社員や学生の参加機会の拡大につなげることが必要

今後の都の取組

- ▶企業や大学におけるボランティア活動を推進するための仕組みや取組についての事例集を作成・周知し、取組が十分でない企業・大学の活動を促進し、社員や学生のボランティア参加機会を拡大

○今年度の事業(気運醸成に係るPR事業)のアンケート結果から

今年度事業(PR事業)では、若者に人気のタレントを起用したイベントを実施。ボランティア行動等実態調査の結果とは異なり、SNSやポスター等を参加のきっかけとする人が多かった



ボランティア行動者率40%の達成に向けては、ボランティア活動を推進するこうした新しいきっかけづくりが必要

今後の都の取組

- ▶スポーツ団体や大規模なイベント等と連携した体験型ボランティアイベントの実施
- ▶SNSを活用し、若者を中心に「ちよいボラ」をPR

○ボランティア行動等実態調査の結果から

多くの都民が東京2020大会に関連するボランティアを希望
こうした都民は、大会関連以外では、スポーツ・文化等に関係した活動
に関心がある

今後の都の取組

▶大会に関連するボランティアの希望者に対し、東京2020大会の取組と連動して、関心が高いスポーツ・文化等のボランティア情報を提供

○外国人おもてなし語学ボランティア

街の中で困っている外国人を手助けする外国人おもてなし語学ボランティアを育成。2019年度までに3万5千人育成することが目標

今後の都の取組

- ▶区市町村や企業、団体等と連携して、その育成数を5万人とする
誰でも外国人観光客などに接することができるようおもてなしの心と簡単な英語を学ぶ e-ラーニングを開設

東京都ボランティア活動推進協議会

大会関連ボランティア分科会

分科会会長：オリンピック・パラリンピック準備局長

活動内容

- ①大会関連ボランティアに関する情報提供、裾野拡大及び気運醸成
- ②分科会メンバーによる各種育成取組への支援・促進

気運醸成分科会

分科会会長：東京ボランティア・市民活動センター所長

活動内容

- ①様々な主体が活動を行うために、構成団体がどのような取組を行っていくかの検討
- ②ボランティア活動の気運醸成・裾野拡大につながる情報の収集・発信